

(計 画)

- 問題 1 建築士の職責、業務等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. 建築士は、常に品位を保持し、業務に関する法令及び実務に精通して、建築物の質の向上に寄与するように、公正かつ誠実にその業務を行う必要がある。
 2. 建築士は、他人の求めに応じ報酬を得て、建築物に関する調査及び鑑定のみを業として行う場合であっても、建築士事務所を開設して業務を行う必要がある。
 3. 建築における省エネルギーへの取り組みは、社会的課題であり、建築物の新築時においては、用途や規模にかかわらず「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく省エネ措置に関する届出を行う必要がある。
 4. 建築物の長寿命化を図るために、建築物の完成後も継続的に適正な維持管理が行われるように計画の初期段階から配慮する必要がある。
- 問題 2 建築物の保存、再生等の事例に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. ヴェローナ(イタリア)のカステルヴェッキオ美術館は、歴史的建造物であった市庁舎を市立美術館へ再生させたものである。
 2. ロンドン(イギリス)のテイト・モダン¹は、第二次世界大戦後の復興時に建設された火力発電所をモダンアートの美術館へ再生させたものである。
 3. パリ(フランス)のオルセー美術館は、鉄道の駅舎を印象派の作品を中心とする美術館へ再生させたものである。
 4. 札幌市のサッポロファクトリーは、ビール工場の煉瓦造^{れんが}の建築群を複合商業施設へ再生させたものである。
- 問題 3 日本の歴史的な建築物に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. 日光東照宮社殿(栃木県)は、本殿と拝殿との間を石の間でつなぐ権現造りの例である。
 2. 西本願寺飛雲閣(京都府)は、外観、内部ともに住宅風に造られており、軽快で奇抜な意匠が施されている。
 3. 厳島神社社殿(広島県)は、宮島の海浜に設けられたもので、自然美と人工美が巧みに調和している。
 4. 出雲大社本殿(島根県)は、正面の片方の柱間を入口とした非対称の形式をもつ中門造りの神社建築の例である。